

品川区内開催競技（ホッケーおよびビーチバレーボール）会場周辺の  
安全対策等の実施を求める要望書（案）

品川区議会では、第32回オリンピック競技大会（2020／東京）の開催がスポーツや芸術などを振興させる好機と捉え、平成26年度よりオリンピック・パラリンピック推進特別委員会（以下、委員会）を設置し、競技場周辺整備などについて議論を重ねています。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）におかれましては、円滑で安全な大会運営に向けた準備、会場施設の整備、機運醸成等について、実行性ある取組みを進めていると伺っております。

一方で、当委員会では、安全対策などについて懸念を抱いています。まず、高温多湿となる夏季には、熱中症が多発することが予測されることから、競技会場までの暑さ対策が必要です。同時に、各会場への経路をわかりやすい案内で誘導するとともに、外国人や障害特性に応じた情報媒体を活用し、求める情報が的確に入手できるよう情報のバリアフリー化などの環境整備は必至です。

また、大会に向けた機運醸成とレガシー創出については、組織委員会の「アクション&レガシープラン」にもあるとおり、多分野で多くの方が参画し、大会が良いきっかけになるべく区をあげて参画機運を高める必要があると考えております。そのため、大会前や期間中に様々な取組みの必要性を痛感しているところです。

つきましては、当区議会として組織委員会に下記の事項を要望いたします。

## 記

1. 大会期間中、競技会場内およびその周辺において、オリンピック憲章の精神をふまえた「平和の祭典」に相応しい取組みを実施されたい。また、文化プログラムや競技体験など、品川区とも連携した賑わいや集客につながる魅力的なアトラクションを実施されたい。

2. 観客動線には、多言語による全ての人にわかりやすい案内表示等の設置のほか、ミストによるクールスポットの設置や飲料水配布などの暑さ対策を実施されたい。また、交通利便性の観点から、大井町駅や大崎バスターミナルから競技会場までのシャトルバスを運行されたい。

3. 区内開催競技について、品川区の園児・児童・生徒などが広く観戦ができる機会を設けられたい。また、選手入場時のエスコートキッズとして品川区内の児童等を起用されたい。

4. 「大井ホッケー競技場(仮称)」の施設名称に、大会期間中は、区内競技会場としての位置づけを明確化するため「品川」を付すとともに、大会後は、総合的なスポーツレクリエーションの拠点とするため「オリンピック」を名称等の中に冠した球技場とされたい。

5. 東京2020大会の開催に尽力された建設工事従事者(事業者・労働者)が、その重責を果たした達成感や職務への誇りなどを感じられるよう、第27回夏季オリンピック(シドニー)に倣い開会式等における入場行進などのプログラムを検討されたい。

以上

平成30年 月 日

品川区議会議長 松澤利行

公益財団法人

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

会長 森喜朗様